

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	スポーツ文化課		
	係名	文化係		
	記入者		電話(内線)	615

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	市民文化センター改修事業					(3) 事業の 優先度	B	
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体		市		
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	44102	(総合計画掲載ページ 111 ページ)					会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	4 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)						財源区分	市単独		
基本施策	4 個性豊かな芸術文化の創造(芸術・文化)						予算科目	款 10	項 5	目 7
施策	芸術文化を楽しむ機会の充実						予算書上の	文化施設設備整備事業費		
施策内容	文化施設の整備						事業名称	(予算書 181 ページに掲載)		
(5) 事業期間	開始	平成	16	年	4	月から	(8) 事務分類			
	終了			年		月まで(力年)	自治事務			
							根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	市民文化センター	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)	市民文化センターは開館以来24年が経過し、施設設備の老朽化からくる事故の危険性を回避する必要がある。また、技術的進歩からの遅れにより、新しい舞台芸術スタイルへの対応が困難になっているなど、劇場としての機能低下を解消するため、抜本的な施設改修が必要となっている。そのため、今後の改修・更新の指針となる中期計画を策定し、施設設備全体を計画的に改修・更新することにより、集客力や稼働率の向上に繋げ、本市の芸術・文化振興の拠点施設として、安定した会館運営ができる環境を整備する。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	1. 市民文化センター設備改修調査委託 2. 市民文化センター空調設備改修実施設計委託	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	市民文化センターは開館後20年が経過し、施設や設備の老朽化による故障等が多くなったことがきっかけで、利用者の安全性や利便性を確保するため、改修工事を開始した。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応			
社会経済情勢の大きな変化を背景に市民の価値観やライフスタイルも大きく変化し、市民のニーズも多様化・複雑化してきている。そのため、文化活動においては目的に応じた活動の場や、一流の舞台芸術の鑑賞機会の提供など、誰もが気軽に文化芸術を楽しむことができる環境整備が求められている。したがって、利用者の安全性や利便性を確保したうえで、こうした環境整備を図り、文化活動を充実させることによって世代間交流や地域の連携を図り、活力ある社会を実現させていくことが必要である。			

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映					
実施計画											
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）					
事業内容		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度	
（１）事務事業費	設備改修調査委託			7,281							
	空調設備改修実施設計			4,481							
	音響機器改修工事	35,079									
	電気設備改修工事	1,998									
	インターロッキング改修工事	670									
	空調設備改修工事										
	舞台機構設備工事										
	合計	37,747		11,762							
	財源	国庫支出金（千円）									
県支出金（千円）											
地方債（千円）		26,300									
その他特定財源（千円）											
一般財源（千円）		11,447		11,762							
合計（千円）		37,747		11,762							
補助・起債制度名											

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	改修を行う施設・設備	目標値			設備改修調査・空調設備改修実施設計	空調設備	空調設備・音響設備・舞台機構	空調設備・音響設備・舞台機構
		実績(見込)値		音響設備・外構設備・電気設備				
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	施設・設備の改修率	目標値	%		44	50	56	62
		実績(見込)値		44	44			
		達成率		71.0 %	71.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				

5. 事業評価

(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。				
市民文化センターの施設全体や設備の大規模な改修は財政的にも困難であるため、日常の保守点検を実施しながら、必要最小限の改修を実施した。				
(2) 項目別評価				
評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	開館後24年が経過し、老朽化している施設や設備もあるため、安全かつ有効に利用するために早急な改修が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	結城市所有の施設であるため、改修は市以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	故障・不具合の多く発生する施設・設備から応急的に対応しているため、全体的な改修期間は長期間となる見込みである。
効率性	コスト効率 人員効率	C	改善の余地がある	部分的な改修工事となっているため、効率は良くない。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	対象者に対して、概ね広く便益を提供している。
有効性	成果の向上	A	上がっている	緊急性の高い施設・設備の改修工事が進んでおり、利用者の安全性及び利便性は向上している。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	部分的な改修工事となっているが、順調に進んでいる。
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。				
市民文化センターの施設全体や設備の改修を早急に実施することが望ましいが、大規模な改修を実施することは現在の財政状況では困難である。そのため、策定される施設改修計画に基づき、緊急を要する施設・設備から改修を実施していくことが必要である。				
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？				
施設改修計画に基づき、効率的に改修していくとともに、国や民間企業からの各種補助金制度を積極的に導入し、市の財政負担を軽減していく。				

6. 事業の方向性判断

評価主体	27年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）	注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）	平成3年6月開館後24年が経過し、本体及び設備等が老朽化している。平成27年度に設備の中長期的な改修計画を作成し、計画に従い、順次改修を行っていく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。